

## 活動報告

|            |   |
|------------|---|
| 団体名        | 一般社団法人清川しっぽ村運営委員会   |
| 活動名        | 熊本地震で被災した犬猫と飼い主さまのための支援活動   |
| 活動期間       | 2017年4月～2017年9月   |
| 活動の成果      | <p>大規模災害時には、被災された多くの飼い主がペットの問題を抱えます。共に避難生活を送ることが、100%良い避難方法なのではなく、ご自身の安全や心身の健康を保つうえで、残念ながら、ペットの存在が負の影響をもたらすことも少なくはありません。それは、平常時には容認されていたことも、皆が心身ともに疲労していたり、慣れない環境下で暮らす期間が長くなればなるほど、争いのもととなる場合があるからです。ペットのお世話を引き受けたり、新しい飼い主を探すお手伝いが出来たことが、ほんの少しでも、被災した方々のご支援に繋がったのであれば幸いです。</p> <p>移転した菊池市内のシェルターでは、今まで雨風にあたる場所で世話をせざるを得なかったペットたちも、屋内で保護することが出来ております。人命が第一とされる災害時であっても、動物のことに心を寄せる方々がもっと増えて下されば、心を傷める人々はもっと少なくなると思います。少しずつですが、地域住民の方々にもボランティアとしてご参加頂けるようになった私たちのシェルターでペットの事で悩んでいる被災した飼い主を、快くサポート出来る体制を、これからも整えていきたいと思っております。</p>   |
| 寄付者へのメッセージ | <p>私どもの被災犬猫支援活動に、ご理解とご協力を賜りましてありがとうございました。</p> <p>熊本地震は内陸型の地震であり、多くの住宅が倒壊しました。台風対策として瓦屋根を用いて建築されていたことにより、家屋の損壊は酷いものでした。そして、当初は認められる避難施設もあった、「ペットを連れての避難」が、時間の経過と共に受け入れられない状況になっていきました。そのような中で、私たちは、被災された飼い主の安全な避難生活が守られていない現状を知りました。このような様々な要因により、人の安全は保たれていてもペットは危険な家屋に取り残されていたり、ペットの為に危険な家屋に残られる飼い主や、自らの事で精一杯で、残してきたペットのお世話まで行き届かず心を傷められている飼い主などは大勢いらっしゃいました。</p> <p>人命が第一に考えられる災害現場ではありますが、被災した方々の安全な避難生活や、心の安寧の為に、動物保護団体として出来ることはないか、そう考えた末、私たちは仮設シェルターを開設し、現地でボランティア活動を開始しました。震災から間もなく1年半が経過しようとしておりますが、先日も、住民の方より「土地の値段は下がっている一方で、家を建てる材料費は値上がりしている。墓石の値段も上がっている。土地を売ることも出来ないし、家を建て直すことも出来ない。」という声が聞かれました。それは、私たちのシェルターにペットを預けられている飼い主も同じです。</p> <p>活動をご理解下さる多くの方たちと、私たちの活動を認めて下さった地元熊本のあたたかい応援に感謝して、私どもの団体の基本理念である『ひとも犬猫もおなじ命』を大切に、これからも活動を継続して参ります。</p> <p>最後になりましたが、被災した地域の一日も早い復興と、犠牲となった多くの『命』のご冥福をお祈りいたします。</p> |

(活動のようす)

